

平成 12 年 10 月 10 日
第四管区海上保安本部水路部

海 洋 概 報 (平成 12 年第 4 号)

(伊勢湾流況調査)

1 調査概要

調査期間	流況調査	:平成 12 年 9 月 13 日及び 9 月 27 日
調査海域	伊勢湾	
	流況調査 測点	(別図参照)
調査船	測量船「いせしお」	
現地調査員	水路部 水路課 海象係長	木村 琢磨
	“ “ 海象係員	山崎 哲也
	測量船「いせしお」 船長	山本 常夫
	“ 機関長	石原 信雄
	“ 航海士補	渡部 千尋
	“ 機関士補	福嶋 力
	京都大学 助手	笠井 亮秀
	“ 大学院生	木戸 一貴
	“ 大学院生	野田 稔子
	“ 学生	辻 秀泰
調査項目	流況調査	:水温・塩分・透明度
資料整理	海象係長 木村 琢磨	海象係員 山崎 哲也

2 観測経過

9 月 13 日は、天候は良かったが、台風の影響による南からのうねりが大きく、測点 7 の観測を断念したが、その他の測点の観測は実施することができた。

また、11 日に東海地方を襲った豪雨の 2 日後であり、貴重なデータを収集できた。

9 月 27 日は、天候は良かったが、前日からの強い北西の風のため、海上模様が悪く、観測には苦慮したが、全測点の観測を実施することができた。

3 海況（成果は別図参照）

流況調査（伊勢湾）

9月13日

水温： 表面はほぼ平年並みであった。

5～20m層付近においては、平年にくらべ1程度高かったが、20m層以深においては、ほぼ平年並みであった。

なお、11日の豪雨による河川水の流れ込みの影響は、ほとんどないようである。

塩分： St.1～2及びSt.4～6の表面から7～8m層付近までは、11日の豪雨による河川水の流れ込みの影響により、塩分が非常に低くなっていたが、St.2～4にかけては、河川水の影響をほとんど受けておらず、平年にくらべ1～2高かった。

10m以深の層はほぼ平年並みであり、河川水の流れ込みの影響はないようである。

9月27日

水温： St.3～4の底層を除き、全般的に平年にくらべ1～2高かった。

塩分： 上層は、St.1～2にかけて平年にくらべ3～9高く、St.3より南では、平年にくらべ1程度高かった。

St.3～4の10～20m層及びSt.6付近の10～30m層で低塩分水の入り込みが見られ、平年にくらべ1～2低かった。

その他の地点は、ほぼ平年並みであった。

9月13日と27日の比較

St.1～2及びSt.4～6の表面付近が高塩分水化していた。

St.3～5の表層において、低温低塩分水化していた。

St.2～5の低層で、高温水化していた。

伊勢湾特有の夏場の強い成層状態が崩れかけているようである。

* 使用した平年値は、「三重県水産技術センター研究報告第6号（平成8年10月）伊勢湾における海況の季節変化」に基づいている。